

日本性科学会 ニュース

第36巻第1号

平成29年(2017年)3月

発行人: 大川 玲子 印刷所: (株) 総文社

第46回セックス・カウンセリング研修会

日 時: 2017年6月4日(日)

場 所: 東京慈恵会医科大学西新橋校1号館5階講堂(東京)

受 講 料: 一般 12,000円 学会会員 10,000円 学生 3,000円

※昼休みに2017年度日本性科学会総会を開催致します。

メインテーマ: LGBT の健康をサポートする

第37回日本性科学会学術集会

日 時: 2017年10月15日(日) 9:00~17:30

(なお、日本性科学連合性科学セミナーは、10月14日(土)に以下の会場で行われます。)

場 所: 大阪府立大学 I-site なんば 2F カンファレンスルーム1、2、3など

会 長: 山中 京子 大阪府立大学地域保健学域教育福祉学類教授

テ ー マ: セクシュアリティと教育・福祉・医療の交錯

特別講演: 「(仮) 性教育と性の健康支援」

スウェーデン マルメ大学 Charlotta Löfgren-Mårtenson 博士

会長講演: 「(仮) 性科学の学際性を再考する—研究者・実践家の経験を通して—」

大阪府立大学地域保健学域教育福祉学類 山中 京子

シンポジウムⅠ: 「いろいろな性と愛のカタチ」

シンポジウムⅡ: 「性の健康支援と教育」

シンポジウムⅢ: 「性の権利と健康」

一般演題口頭発表Ⅰ

一般演題口頭発表Ⅱ

一般演題口頭発表Ⅲ

懇親会: 2017年10月14日(土) 18:00~ 南海なんば駅周辺

第37回日本性科学会事務局: 〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1

大阪府立大学地域保健学域教育福祉学類 山中京子研究室

TEL: 072-254-9798 (研究室直通) FAX: 072-254-9798

Vol. 36

日本性科学会

〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-3 森島ビル4F

No.
1

TEL・FAX 03-3868-3853

性嫌悪と性交痛の一例

私のクリニック目白

藤 井 祐 美

症例：43歳 女性 専業主婦

妊娠分娩歴：1回経妊0回経産（人工妊娠中絶×1回）

初診時主訴：PMS、月経痛、（性交痛）

既往歴、合併症：子宮腺筋症、子宮筋腫

宗教：仏教系新興宗教

家族背景：夫と二人暮らし。夫は42歳（一つ年下） 宗教を通じて知り合い、2年間の交際を経て14年前に結婚。

経過：

X年4月 月経の2週間前から出現するイライラ、倦怠感、腰の鈍痛などのPMS症状と、月経痛、性交痛を訴えて当院婦人科外来を受診した。性交痛は骨盤痛ではなく、腔の入口の粘膜の痛みとのことだった。

内診、経腔超音波検査では、子宮腺筋症、子宮筋腫、子宮・付属器の癒着所見を認めた。また、内診時に腰が逃げてしまい、内診に対する強い怖れが見受けられた。

性生活の経過を聞いてみると、結婚して2年で性交痛のためセックスできなり、最近12年間は1度もセックスしていないという。夫はセックスをしたがるので、大ゲンカになったが、最終的には理解してくれた。セックスをしなくなつて安定し、夫との関係はとても良いと思うとのことだった。

PMS、月経痛に対しては漢方薬（加味逍遙散）を処方した。2週間後に再診され、加味逍遙散が著効しPMS症状の改善を認めた。この2回目の診察以降合計4回の診察で性生活の悩みを聞き、相談を行った。

初体験は挿入困難のため、挿入できるまでに2年以上かかったというエピソードや、タンポンの挿入にも恐怖感があり入れられないことから、ワギニスムス傾向もあると考え、当初は行動療法（系統的脱感作）を勧めたが、全く宿題をやらないため頓挫した。

相談者は結婚時仕事をしていなかったが、結婚1年後からフルタイムで接客業の仕事を始めた。仕事のストレスで8kg痩せたため1年で仕事をやめ、その頃から性交痛が出現。自分は忙しくて疲れているのでセックスしたくないが、夫が誘うので我慢して応じていたら段々痛くなってきたという。訴えを聞いていくうちに、夫が頼りなく、社会経験が少なく無口なため男性としてつまらない、セックスやキスも下手だという不満を話すようになった。また、相談者の実母は専業主婦で、本人も専業主婦に憧れていたが、近所に住む夫の両親からは再三働くように言われ、夫も自分の気持ちを汲んでくれないので、それもストレスだったとのことである。

28歳頃、友人の赤ちゃんを見て自分も子供が欲しいと思い、夫に「うちもそろそろ子供が欲しい」と言ったら、「子供をもつ自信がないから絶対いらない」と言わされた。それを根にもって数年後にも夫に怒りをぶつけた。

性欲の状態を確認すると、性欲はあり、マスターベーションをすることもあるという。夫にも悪いと思うし、自分でも何とかしてセックスができるようになりたいと思うと。しかし風呂上りに自分の裸を夫に見られるのも嫌で、ディープキスはできない。性嫌悪の状態にあると考え、心理カウンセリングを勧めたが希望されなかった。

5回目の診察時に、本人からもうセックスは諦めた、と泣きながら告げられた。相談していくうちに、自分の心の問題だと気付き、やるべきことはわかったが、やっぱりできない。子供が欲しいのに夫が同意してくれなかつたことが一番大きいのもわかっている。今はセックスをしなくなつて関係が安定している。これでいいと納得できた。

セックスセラピーは終診となったが、PMSの治療の継続を希望されているので引き続き診察を行うこととなった。

（相談者のプライバシー保護のため、一部詳細を変更しております。）

考察：性欲はあり、夫との関係に決定的な破綻はないが、夫との性的接触を避けていることから性嫌悪であると考えられる。DSM-Vにおいて性嫌悪が削除されたこともあり、研究会の出席者の間に定義についての混乱や困惑が見られたが、それでも性嫌悪は存在しており、今後も発信していくことが大切だ、との意見をいただいた。

東京慈恵会医科大学医学部看護学科

佐 藤 正 美



慈恵医大看護学科で教員をしております佐藤正美です。

大学院では、がん看護専門看護師の教育を担当しております。専門看護師は認定された大学院修士課程を修了した後、日本看護協会の試験で合格して取得できる資格で、私が大学院で学んだ頃にはまだ誕生していなかったものです。大学院への入学がもう少し遅かったら、私は確実に専門看護師の資格を取るコースを選択していました。実践あっての教育、実践あっての研究でなければ看護は一向に発展しない。医師と同様に、実践・研究・教育の三つを同時にしないと、本当の専門職にはなれない、というのが学部学生時代からの私の信念だからです。というと格好がいいのですが、単純に実践は楽しくナース服でいる自分が落ち着くのです。

臨床で出会った退院後の患者さんは、それぞれの創意工夫と治りたい一心から、目を見張るほど回復した人、また術後変化した身体機能に苦悩している人達と出会いました。手術により患部は切除できたものの、食べることに恐怖と不安を抱いている人、他人に言えない排便障害で悩み、友人の誘いを断るために部屋の電気を消して居留守を使っている人。なんとかしないと！と、私のやる気スイッチに火が付き、研究活動が始まりました。

直腸がん低位前方切除術を受けた人の排便障害に着目しました。そこで出会った患者さんから「結婚してる？ 子どもは？」と質問が。「既婚ですし、子どももいますよ。」「なら言っていいかな～。手術の後、できなくなっちゃったんだよね～。立たなくなったり、だめなんだ。一生このままかな。それだったら手術しなかったよ。困ったよ～。」と真剣な表情で相談を受けました。60代の男性でした。20～30代の小娘では投げかけてもらえない質問を投げかけられ、とても嬉しく感じるとともに、「性」の問題を自然に扱える自分になれたことに嬉しさを覚えました。歳を重ねることはいいことです！ がしかし、その時の自分は十分な知識がなく、「次にお会いするまでに調べておきますから。」と伝え、さっそく医師に尋ねました。が残念なことに、ほとんどスルー。文献を調べましたが、どの程度回復がのぞめるか、明確な回答は得られませんでした。そして驚いたことに、直腸がん術後の女性の性機能障害についての研究は皆無でした。がん患者の性の問題に注目したいな、と思っているところに、私の大学時代の恩師である日本性科学会の幹事の茅島江子先生に声をかけていただき、セックスカウンセリング研修会に参加いたしました。学ぶべきことにたくさん出会い、大変刺激を受けました。

生き生きと豊かに、自分を大切にして少しでも自信をもって生きるために、人間にとて「性」は大切な要素です。がん治療によって、身体の形態が変化したり機能が障害されたり、それによって自信を無くしたり、パートナーとうまくコミュニケーションがとれずに関係がぎくしゃくしたり。そのような方々が少しでも力をつけて前へ進んで行けるようにするために、何が必要なのか考え支援していきたいと思います。また、そのような人たちへの支援が必要なことに気づき、支援ができるナースを育てること。これを実現させていきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

会員・役員など

東京慈恵会医科大学医学部看護学科教授、日本看護科学会代議員、日本がん看護学会代議員、日本看護技術学会評議員、日本看護学教育学会編集委員、日本クリティカルケア看護学会編集委員、日本看護診断学会理事、日本性科学会幹事

資格認定の更新について

日本性科学会副理事長（認定制度担当） 阿部 輝夫

セックス・セラピストとセックス・カウンセラーの資格認定制度が平成9年に開始され、今年で20年目を迎えました。今年の資格更新者は以下の通りです。

セックスセラピスト 茅島江子 森村美奈
大谷眞千子 小堀善友

手続きに必要になる書類は、取得単位を証明する学会の「参加証」と、研修会や症例研究会の「受講証」のコピーと、論文（別刷り）・著書（表紙）のコピーになります。

「参加証」や「受講証」は今後の更新のために保管しておかれることをお勧めします。

更新の申請は7月中に更新書類を送付いたしますので、ご記入のうえ、必要書類を添付のうえ、8月31日までに、日本性科学会資格認定制度委員会にご郵送ください。11月中に認定シールをお送り致します。

尚、これまでに取得された資格者数は以下の通りです。

セックス・カウンセラー：11名

セックス・セラピスト：37名

スーパーバイザー：19名

*スーパーバイザーは理事長任命によるものですが、自薦他薦がありましたら、お知らせください。

詳しくは、本学会誌巻末の「資格認定更新に関する規定」をお読みください。

第23回性の健康世界学会参加ツアーのお知らせ

(23rd Congress of the world association for sexual health; WAS <http://www.was2017.org>)

5月28～31日にプラハ（チェコ）で開催される WAS 大会の参加ツアーを ATLAS から企画してもらいました。要領・申し込みページは、それぞれ以下をご覧ください。

<http://www.atlasstudytours.com/cn31/pg426.html>

<http://www.atlasstudytours.com/cn17/pg349.html>

超早期登録（3/17; 515EUR）、早期登録（4/10; 540）、料金は WAS メンバー（日本性科学会；Japan Society of Sexual Science）で通ります。看護師、学生ほか、より低価格設定あり、詳細は WEB でご確認ください。

会費納入のお願い

4月より新しい年度（2017年4月1日～2018年3月31日）になりますので、2017年度年会費（一般会員12,000円、役員15,000円、学生5,000円）のご納入を、よろしくお願い申し上げます。手数料が無料となります学会の郵便振替用紙を同封いたしますので、ご利用ください。

尚、学生の方は学生証のコピーを事務局にお送りください。学生会員と認められた場合は、改めて学生会員の郵便振替用紙を送付いたしますので、その用紙でお振込みをお願い申し上げます。